

### <自治体実施調査研究部門優秀賞・盛岡市まちづくり研究所の声>

この度は、CR-1 グランプリ自治体実施調査研究部門優秀賞という素晴らしい賞をいただき、心から感謝申し上げます。

盛岡市では、平成20年度から岩手県立大学に「盛岡市まちづくり研究所」を大学と共同設置し、市政課題の調査研究に取り組んでおります。

「アセットマネジメントによる公有資産保有の在り方について」では、公共施設の老朽化問題への対応策を提示するため、人口・財政・老朽施設の更新費用などの将来推計を実施した結果、現在保有している施設の全てを現状のまま維持更新していくことは極めて困難であり、施設の「長寿命化」を行っていくためには、施設の「総量縮小」が必要であることを指摘し、その実現に向けた具体的な取組み手順を示しております。

盛岡市では、政策提言を基に庁内に資産管理活用事務局を設置し、施設保有の最適化に全庁的に取り組んでおり、研究成果を生かした施策の展開に努めております。

今後も、市勢発展を旨として緊急度又は優先度の高い市政課題に取り組んでまいりますので、皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

### <「アセットマネジメントによる公有資産保有の在り方について」研究報告書（全文）>

[http://www.city.morioka.iwate.jp/dbps\\_data/\\_material/\\_files/000/000/003/555/houkokusho-h23.pdf](http://www.city.morioka.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/003/555/houkokusho-h23.pdf)

自治体実施調査研究部門 優秀賞

「アセットマネジメントによる公有資産保有の在り方について」

岩手県盛岡市（盛岡市まちづくり研究所）

月尾嘉男東京大学名誉教授による講評

最近、社会基盤の老朽による事故などが頻発するとともに、財政状況の悪化により、社会基盤の維持は重大な困難に直面している。盛岡について、その実態を精緻に分析するとともに、対策の4種の手段を提言している。素晴らしい論考であり、この成果を域内の施設についての具体対策として発展させることが期待される。

研究期間	2010年4月～2012年3月	
研究の概要	目的	人口減少時代の自治体経営に求められる「公共施設マネジメント」について、全国の先進的な取組事例を体系的に整理するとともに、盛岡市の施設保有の現状と課題を分析し、同市における公共施設の在り方及び望ましい維持管理の手法を提言する。
	結論・提言	盛岡市が取り組むべき手法は、「長寿命化」と「総量縮小」を組み合わせることで実施することである。目指す姿は施設保有の最適化（量、サービス、運営コスト、建物性能の最適化）である。このため、①施設の「建物性能」「利用実態」「管理運営コスト」情報を収集し、②施設の現状と課題を住民と共有するため情報を公開する。その上で、③建物性能と利用度を用いて施設評価を実施し、④従来の縦割りの管理区分を超えて施設を多目的利用や複合化し保有総量を縮小する。そして、⑤継続使用する建物については重点的に長寿命化を実施する。
	研究の特徴	【政策・施策への反映】 ・平成24年度から財政部に事務職3名、建築技師2名からなる担当事務局を設置。 ・同年4月には盛岡市議会議員、同市職員及び近隣自治体職員計126名に対し研究を報告。 ・同年6月には施設の基本情報収集等について約4,700万円を補正予算措置。 ・同年7月には「建物性能」「利用実態」「管理運営コスト」情報収集の業務委託を締結。 ・同年8月から建築士3名、事務補助3名を新たに雇用し、施設保全状況の現地調査を開始。
	現状・課題認識	現在、高度経済成長とともに建築されてきた多くの公共施設の老朽化が進んでいる。建築から50年程度が経ち、構造体の劣化、漏水、水質低下などが見られ、一部施設では建替えや大規模改修などの更新が始まっており、今後、本格的な施設更新需要が訪れると予想されている。加えて、近年はバリアフリー対応、環境対応、耐震補強及び東日本大震災修繕対応等により公共施設の維持保全に対する自治体の負担が大きくなっている。 一方で、少子高齢人口減少社会の到来により、税収は長期にわたり減少する見込みであり、これまでの手法で全ての公共施設を維持管理、更新していくことは困難な状況となっている。
	手法	【先進自治体の事例分析】公共施設マネジメントを実践する14自治体にヒアリングを実施し、取組みの特徴を整理し、マネジメント手法を体系化した。 【盛岡市の課題分析】市の現状（施設保有状況・財政状況等）について、地方財政決算情報管理システム等を活用しベンチマークを測定した。また、各種将来推計（人口・財政・施設）を行い、潜在する課題をGIS等により可視化し、政策判断に資する定量的情報を整備した。 【市民意識調査分析】無作為抽出の市民2,000人に対しアンケートを実施（回答率48.75%）
その他の内容	・本研究は、盛岡市と岩手県立大学とで共同設置している盛岡市まちづくり研究所において、市職員が同大学教授からアドバイスを受けながら研究を実施している。 ・同研究所においては1テーマごとに研究員1名が専属で従事する形で調査研究を実施。受賞調査研究は、盛岡市職員 上森 貞行 氏が実施したもの。 ・同研究所が基礎研究としてこれまで整備してきた地区別人口推計、地域メッシュ統計、GISデータ等の定量的情報を活用し、実践的な政策提言を目的とした研究である。 ・全国の先進自治体の取組事例を多数掲載していることから、多くの自治体職員の方にご覧いただきたい。	

※研究の概要は応募者が作成したものです。

< 「アセットマネジメントによる公有資産保有の在り方について」 研究報告書（全文） >

[http://www.city.morioka.iwate.jp/dbps\\_data/\\_material/\\_files/000/000/003/555/houkokusho-h23.pdf](http://www.city.morioka.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/003/555/houkokusho-h23.pdf)

# 第3回都市調査研究グランプリ （CR-1グランプリ）

当センターでは、平成24年度に、第3回都市調査研究グランプリを実施した。ここでは、グランプリ及び優秀賞を受賞した調査研究事例について概要と選考委員の講評を紹介する。また、第4回都市調査研究グランプリの概要についてもお知らせする。

## 1 都市調査研究グランプリとは

地域の実情にあった都市の政策や地域に根差した職員の活動が更に求められるなか、都市自治体や都市自治体職員の調査研究能力の向上は重要な課題となっている。互いに競い合うことによるモチベーションの向上や優秀な調査研究情報を共有することによる調査研究能力向上を目的として、当センターでは、都市調査研究グランプリ（以下、「CR-1グランプリ」という。）を実施しており、今年度で第3回<sup>1</sup>を迎える。

CR-1グランプリにおいては、全国の都市自治体が行った調査研究（以下、「自治体実施調査研究」という。）と都市自治体職員が自主的に行った調査研究（以下、「職員自主調査研究」という。）の2部門を設けている。選考の結果、全体を通じて最も優秀と認められたものにグランプリ、各部門ごとに優秀と認められたものに優秀賞を授与している。

## 2 第3回CR-1グランプリ応募状況

応募期間は平成24年7月2日から9月18日までとし、応募総数は、21団体26件（第2回は23団体26件）となった。応募団体の内訳としては、自治体実調査施研究部門は10件<sup>2</sup>（第2回は13件）、職員自主研究部門は11団体16件（第2回は11団体13件）であった。

## 3 第3回CR-1グランプリ選考方法

当センター研究室が一次選考を行い、月尾嘉男東京大学名誉教授（元地方制度調査会委員、専攻 メディア政策・システム工学）を選考委員に委嘱<sup>3</sup>し、その中から各部門の優秀賞とグランプリを選考した。

選考基準については、都市自治体（職員）が行う調査研究であり、研究目的は大学などの研究と相違して、地域の行政活動に貢献することを基本とするから、現状の分析のみではなく、それを基礎にして提言される具体施策の内容が重要との視点を持ち、次の4点に重点を置くこととした。

<sup>1</sup> 募集内容は本号77～78ページの募集要項及び応募用紙を参照

<sup>2</sup> 自治体実施研究の応募は1都市1応募としている。

<sup>3</sup> 選考が終了するまでの間は公平性を期すため審査委員は非公開

- ① 調査研究の内容が行政の政策・施策にどの程度反映されている（できる）か。
- ② 地域の実情や課題を正確に把握しているか。
- ③ 研究課題、手法などに独創性が見られるか。
- ④ 都市自治体職員の力で調査研究しているか。

#### 4 第3回CR-1グランプリ選考結果<sup>4</sup>

調査研究の名称	受賞団体及び受賞者
<b>【グランプリ 1件】</b>	
臨境都市・福岡の国際交通の拡充に関する研究 Research on Enhancing International Passenger Transport of Fukuoka, The Border City of Japan	福岡市所属 青山 航
<b>【自治体実施調査研究部門 優秀賞 2件】</b>	
アセットマネジメントによる公有資産保有の在り方について	盛岡市
定住人口の増加策について	春日部市
<b>【職員自主調査研究部門 優秀賞 2件】</b>	
女性差別撤廃をめぐるグローバルスタンダードと国内政策との乖離 —自治体は当事者ニーズにどう応えるのか—	草津市所属 坂居 雅史
再任用職員の高い就業意欲とその有効な活用 —組織コミットメントの多次的把握による就業意欲要因の分析—	所沢市所属 新藤 良則

#### 5 第3回CR-1グランプリ表彰式

平成25年2月26日に日本都市センター会館にて表彰式を執り行い、受賞団体（者）には、月尾選考委員から賞状が授与された。また、表彰後の月尾選考委員と受賞者との懇談が行われた<sup>5</sup>。

#### おわりに

今回でCR-1グランプリは3年目を迎えるが、応募数は横ばいで推移しているものの、全国各都市からの応募があり、地域的な広がりを見せている。また、月尾選考委員より、研究内容が年々向上しており、この制度が次第に認知されているとの講評をいただいている。

今後も当センターとしては、CR-1グランプリ等を通じて、都市自治体の調査研究能力の向上に寄与していきたいと考えているので、皆様の積極的な参加を期待している。

（研究員 高橋 清泰）

2013年度も、第4回都市調査研究グランプリの募集をいたします。皆様からのご応募お待ちしております。詳しくは79ページをご覧ください。

<sup>4</sup> 各調査研究の研究概要と講評については、71～76ページに掲載

<sup>5</sup> 表彰式の様子については当センターホームページにて紹介している。